

# 平成30年度の目玉研究等 林業研究所

## ◆林業用優良種苗及び食用きのこの育種に関する研究

### 【背景】

- ・林業採算性が非常に厳しい状況であり、伐採後の再造林率は約3割にとどまっています。
- ・深浦町及び岩手県からのマツ材線虫病の被害拡大が危惧されています。
- ・国内で消費されるキクラゲ類の9割以上は輸入品で、近年国産の需要が高まっています。

### 【目的】

- ・造林需要の高い樹種(無花粉スギ、カラマツ、ヒバ)について、優良種苗の安定生産技術の開発を進めます。
- ・マツ材線虫病の拡大・蔓延を防ぐため、マツノザイセンチュウに感染しても枯死しにくいマツ(抵抗性マツ)を作出し、採種園を造成します。
- ・本県の気候に適したアラゲキクラゲの品種を開発し、栽培技術支援を行います。

### 【H30目標】

- ・無花粉スギとカラマツの着花促進技術の開発とカラマツ採種園とヒバ採種園を整備します。
- ・抵抗性クロマツの種子を生産する採種園(0.5ha)を造成します。
- ・アラゲキクラゲ開発品種の品種登録申請を行い、栽培マニュアルを作成します。

### 【今後】

- ・無花粉スギ、カラマツ及びヒバ種子の増産を図り、苗木生産者に供給します。
- ・平成35年度から抵抗性クロマツ種子を供給予定です。
- ・アラゲキクラゲ新品種と栽培技術をきのこ生産者に普及します。

農研フラッシュもご覧ください。  
第49号:無花粉スギ  
第53号:抵抗性クロマツ



閉鎖型無花粉スギ採種園



抵抗性クロマツ採種園



アラゲキクラゲ開発品種

お問い合わせ

林業研究所 (TEL 017-755-3257)

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center

地方独立行政法人 青森県産業技術センター

